

河越城を巡る攻防

長禄元年（一四五七）、扇谷上杉持朝は太田道真・道灌父子に命じ、現在の郭町一丁目・二丁目に河越城を築きました。

その後、河越の地は、河越城を拠点とする扇谷上杉氏と武蔵守護で関東管領の家系である山内上杉氏の、対立の場となります。戦国期の軍記物語である「松陰私語」によると、山内上杉顕定と古河公方足利政氏が、扇谷上杉氏の河越城攻略のため、上戸に陣を張つたと伝えられています。入間川を挟んだ対立は、約八年もの間続きました。その間に都から連歌師の宗祇が両陣営を訪れるなど、戦乱の最中にも連歌会が行われていたようです。この「上戸の陣」は現在の上戸小学校西隣、国指定史跡「河越館跡」に所在していたと考えられており、防御のための土塁が現在も残されています。



河越館跡に今も残る土塁

河越館跡は平安時代末から鎌倉時代にかけて活躍した武蔵国の有力武士・河越氏の館跡であり、中世を通じて館跡地が利用されてきました。史跡公園整備に伴う発掘調査では、山内上杉氏が陣を構えたころの遺構・遺物が多く見つかっています。短期間で何度も堀を付け替えて戦に備えた痕跡や、武士たちが儀式や酒宴で使い捨てにした「かわらけ」という素焼きの皿、瀬戸焼のすり鉢や常滑焼のかめなど遠隔地の焼き物が見つかるなど、陣所での生活の様子をうかがうことができます。

どんぐり

編集後記

記録的な暖冬で、3月中旬には開花が予想されていたことしの桜、その後の寒気の戻りもあり、川越にとっては絶妙なタイミングでの開花に恵まれました。1つは3月28日の天皇、皇后両陛下とスウェーデン国王、王妃両陛下のご訪問。ご一行をお待ちしていたかのように満開でお迎えした、喜多院のしだれ桜。そして恒例となった4月1日の新河岸川桜まつりは、樹齢50年余りの桜がみごとなまでに満開。小舟から見上げる桜のトンネルは、皆さんの心をとらえたことでしょう▶思い出すのは平成13年。満開の桜に、みぞれが降りました。平成14年は3月中旬に満開、新聞紙面に「最速桜咲く」「春分満開」などの見出しが躍りました。地球温暖化が心配される今日、桜はいつまでも入学の時期に咲いてほしいと願ってやみません。



姉妹都市から こんにちは！



サウスセーレム高校の皆さん（米国）

私たちは春休みを利用して、京都や広島に滞在したあと、川越に来て、市内の高校を見学しました。米国では、長い休み中は学校には行きません。日本の高校生はクラブ活動などで多くの生徒が登校していて驚きました。

また、剣道や柔道・茶道などのクラブがあるのは日本らしいと思いました。私たちは、運動系、文化系問わず、複数のクラブに所属しています。日本の高校生は1つの部だけしか所属していないことも驚きでした。この訪問で、米国と日本の高校の違いを知ることができました。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは14ページ・18ページ・19ページ、相談は27ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141